



食と農を楽しく学ぶ ちゃぐりんフェスタ開催



呉地域本部は8月22日、小学校の夏休みを利用して江田島市立三高小学校の三高児童クラブで「ちゃぐりんフェスタ」を開催し、1年生から6年生まで18人が参加しました。

昨年度から江田島市教育委員会生涯学習課と連携し、家の光協会の子ども向け雑誌『ちゃぐりん』を活用して子どもたちに食と農に興味を持ってもらおうと取り組んでいます。



「お米の実験」
黄色のご飯
たきあがり



「野菜の実験」
トマトの見分け方



「卵の実験」
マヨネーズ
づくり



ご飯に味付け
酢飯づくり

3色のご飯で
おにぎり
づくり



地域の料理教室やこども食堂などで活躍する野菜ソムリエの岡村のぞみさんを講師に『ちゃぐりん』8月号付録の「キッチンサイエンス」を使って楽しく学びました。

お米をクチナシやパプリカと一緒に炊き込んで着色する「お米の実験」、マヨネーズを手作りする「卵の実験」、トマトを砂糖水に浮かべて甘いトマトを見分ける「野菜の実験」を行ない、炊き上がったお米や手作りマヨネーズなどは皆でおいしくいただきました。

実験の前には、J A 営農販売課の営農指導員から「お米の作り方」と題して、米がどのようにして作られ、家に届くのかを学びました。



「ちゃぐりん」を紹介



お米の作り方を説明

女性部三高支部の皆さんにも
お手伝いいただきました。





落葉果樹

イチジク

▽採収

採収も終盤となります。秋の深まりとともに気温も下がるため、小玉果や未熟な果実が増えてきます。

今年の採収を終えたあとも、いくらか果実が樹上に残っていると思います。樹上に残った果実をそのまま放置すると、翌年の病害虫の発生原因となるので、可能な限りすべて摘果し園外に持ち出して処分するように心掛けてください。

▽間伐

密植園では、作業性や風通しが悪く、また日照不足となることから、着色不良や病害虫の発生など、品質低下を招きやすくなります。

せん定で樹を切り詰めようとする、強せん定となり、勢いの強い枝が多く発生し、果実肥大の低下や熟期の遅れ、着色不良などで品質が低下してしまいます。

葉があるうちに園地の混み具合をみて、密植になっていたら間伐を行ないましょう。

イチジクは、植栽後の樹冠拡大は他の品目と比べ早いです。植栽間隔は広くとるようにしましょう。

カキ

▽元肥の施用

元肥は葉にチッ素を供給し、翌年の貯蔵養分を蓄える働きがあります。施用時期は、10月（気温が高く葉のある時期）に施用するのが重要となります。

落葉後に施用しても吸収されないの遅れないように注意しましょう。ただし、勢いの強い芽が多く出たり、葉が大きすぎる樹へは施用を控えましょう。

モモ

▽元肥

夏季の葉の大きさや葉色、徒長枝（勢いの強い枝）の発生本数などで、元肥の施用数を調整します。

樹勢の強い場合は施肥量を少し減らしましょう。

施肥時期は、カキ同様に地温の高い10月中に肥料を施用しましょう。

秋冬どりの野菜の種まき、10月後半にはソラマメの種まきをして苗を作りましょう。また、苗の植え付けは冬の野菜、来春に収穫する野菜の苗を植えましょう。

種まき

コマツナ、ホウレンソウ、シユンギク、チンゲンサイ など

植え付け

キャベツ、ハクサイ、カブ、ラデッシュ、ソラマメ、イチゴ など

管理など

朝と夜の気温の変化が激しい時期になるので発芽や生育の温度管理も重要なポイントです。夜温が下がる時にはビニールなどでトンネルを作って土中の温度を保ちましょう。気温が上がる日中にはトンネルを外すなどして温度に注意しましょう。

この時期、葉野菜類にアオムシなどの害虫が発生しやすくなります。防虫ネットや農薬での予防、こまめに見回って取り除くなど対策しましょう。また、農薬で防除する際には葉の裏にもかかるよう散布しましょう。

土作り

9月までに十分な量の野菜を植えたので、年内の作付けはしない方もいると思います。畑が空いている場合は今のうち



▽土壌改良

モモは他の果樹に比べ浅根性で成長が早く、成園に早くなります。細根が少ないとすぐに樹勢が弱ってしまいます。特にマサ土（花崗岩土壌）は、水はけがよく乾燥しやすいため、樹勢が弱ると、若樹でも幹からゼリー状の物質が発生することがあります。

土壌改良を行ない、細根量を多く保つことが重要となります。

逆に耐水性も弱いので、水はけが悪い園地では、明きよや暗きよなどの排水対策を行なった上で土壌改良を行なうとよいでしょう。

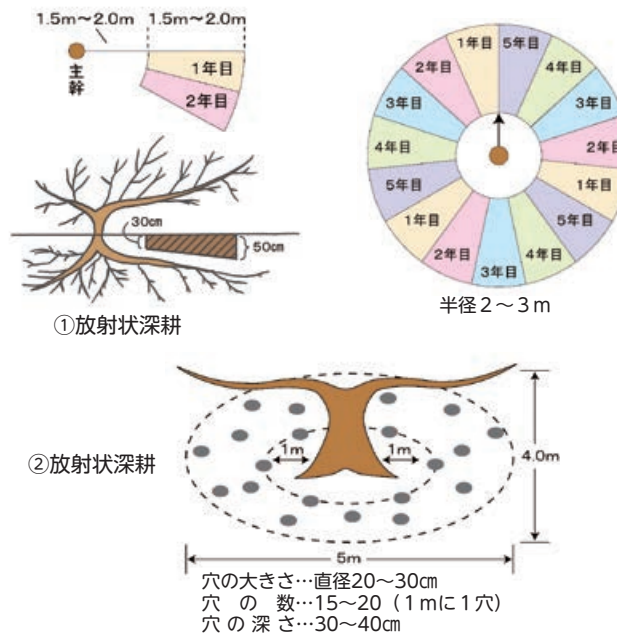


図1 土壌改良の方法（「因伯の果樹」より）

表2 7月～8月の葉の重さによる樹勢診断指標（清水白桃）（「果樹」より）

樹勢	弱い	適	強
葉の大きさ	小さい	普通	大きい
葉の縦の長さ	15cm未満	16cm前後	18cm以上
葉の重さ	0.9g 未満	0.9～1.1g	1.1g 以上

岡山県果樹栽培指針

キウイフルーツ

▽灌水

乾燥が続く場合は、葉が傷み落葉することがあります。引き続き、適度な土壌水分を保ちましょう。

▽縮伐

成木を太枝単位で切り縮める時期は、収穫直後となります。落葉後、貯蔵養分を貯めきった後では、春先の地上部と根のバランスが悪くなり発芽にバラツキが起こりやすくなります。

土壌診断で土の健康診断をしませんか？

JAグループ土壌診断 半額キャンペーン実施中!!

土壌診断で土の健康診断をしましょう。

診断結果に基づき、土づくりや施肥を行なうことで、収量の増加や品質の向上が期待できます。

11月末まで、土壌診断料金が半額となるキャンペーンを実施しています。

興味のある方は、ぜひこの機会をご利用ください。



今なら
660円 → 330円に!
(税込) (税込)

土壌診断に関するお問い合わせは、各アグリセンターまでお願いいたします。

お問い合わせ先

呉アグリセンター : (0823) 71-5155 倉橋アグリセンター : (0823) 54-2577
蒲刈アグリセンター : (0823) 65-2009 江田島アグリセンター : (0823) 40-3430

から、緑肥を植えておく事もお勧めします。緑肥用のクローバーやレンゲなどの種を畑にまいて、そっと覆土します。後々大きくなったら土にすき込み

ます。有機物の補完や連作障害を避けることもできます。是非試してみてください。



▲セミナーを受けるJA職員①と生産者ら



管内でセミナー開催 将来の資産形成・運用を呼び掛け

8月下旬、倉橋東支店が倉橋アグリセンターで地域の生産者へ向けた「資産形成・運用セミナー」を開催。生産者ら10人が参加しま

した。
将来の資産形成や運用に興味を持つてもらい、NISAを利用・活用してほしいと呼び掛けました。
7月には呉地域本部と本店信用推進課が共同して職員向けに「つみたてセミナー」と題した研修会を開き、2024年度の投資信託事業展開を見据えて全職員の意識醸成を目的に、資産形成の必要性や投資信託（投信）に対する苦手意識の払拭と、組織としての取り組み方針を確認しました。



JAの事業を体験 インターンシップ受入

呉地域本部は、地域貢献活動の一環として、毎年インターンシップを実施しています。今年度は8月初旬に広島県立呉商業高等学校の2年生1人を受け入れ、呉グリーンセンターと信用共済部、総務課や呉支店で就業体験を行いました。
事業説明の後、呉グリーンセンターで産直市用の花卉の準備や荷造り、信用課で事務処理を体験、呉支店で実物の札を使って札勘も行ないました。



▲花卉の品出し準備をする藤下さん

体験した藤下壮馬さん(16)は、「今回の就業体験で、JAのいろいろな事業について体験させてもらい、大変有意義な時間だった。消費者の目線での荷造り、期待に応えるために仕事をするという姿勢を今後の就職活動に活かしたい」と笑顔で話しました。



秋の旬到来 イチジク「蓬萊柿」収穫ピーク

8月下旬、江田島アグリセンターでイチジク「蓬萊柿」の荷受け・出荷が最盛期を迎えました。多い日には1日に2,000パックを超え、10月末まで65,000パック(20t)の出荷を見込みます。
「蓬萊柿」は熟れてくると果頂部が星型に開き、豊かな甘い香りと味、プチプチとした食感が特徴です。
早朝から出荷に追われる江田島イチジク部会会長の奥本三さん(71)の園地(15a)でも最盛期を迎え、外観品位や着色、大きさを厳しくチェックして手作業でパックに詰め、午前中に出荷します。



▲適期を見極めて収穫する奥本さん



伝統つなぐ電照菊



▲菊の成長を見守る山本さん

江田島市沖美町の山本農園はハウス約2haで電照菊を栽培しています。午後1時から3時間、電照菊の明かりが夜空を照らします。
菊は日照時間が短くなると花芽を形成し開花する性質があり、人工的に光をあてることで、開花時期を遅らせ、電照をやめると約2カ月で開花します。
ハウスには3mごとに一つずつ電灯をつるし、ハウス一棟に約100個を使います。点灯時間は日暮れや日照時間に合わせて、だんだんと長くして5時間まで伸ばします。
電照で育てるのは輪菊と小菊。10月から12月にかけて35万本の出荷を計画しています。